



かながわ

議会だより

鎌倉市議会

〒248-8686 鎌倉市御成町18番10号

電話：0467(23)3000 内線 2446 FAX：0467(23)5825

鎌倉市議会ホームページ…………… **鎌倉市議会** **Q検索**

メール：gikai02@city.kamakura.kanagawa.jp

編集発行：鎌倉市議会広報委員会

令和元年(2019年)5月臨時会(5月28日)

令和元年(2019年)6月定例会(6月5日～21日)

議会新役員、常任委員会等の委員構成が決定

●定例会等の概要

- ・5月臨時会では、専決処分承認議案3件を承認したほか、「平成31年(ネ)第338号損害賠償請求控訴事件の上告受理申立てについて(旧レイ・ウェル鎌倉)」を可決しました。
- ・6月定例会では、議長、副議長選挙および議会選出の監査委員の選任について同意したほか、各常任委員会等の委員構成が決定しました。また15名の議員が一般質問を行いました。
- ・市長提出議案として、条例関係議案12件、補正予算議案2件、その他議案6件を可決、教育委員会委員の任命議案に同意しました。
- ・委員会提出議案として、「幼児教育・保育の無償化制度に関する意見書の提出について」を可決したほか、陳情4件を採択、請願1件を不採択としました。

●定例会等の主な動き

- 5月臨時会/本会議(5/28)……………議案上程、委員長報告、採決(4面)
総務常任委員会(5/28)……………議案審査
6月定例会/本会議(6/5～10)……………議長・副議長等新役員の決定、
一般質問、議案上程、採決(1・2面)
各常任委員会(6/12～17、20、21) 議案、請願・陳情審査等(3・4面)
本会議(6/21)……………委員長報告、議案上程、採決(3・4面)

議会報告会&意見聴取会を開催しました

5月18日(土)に鎌倉市役所議会全員協議会室、19日(日)に大船学習センター第1集会室にて、議会報告会および意見聴取会を開催しました。議会報告会では、各常任委員会と一般会計予算等審査特別委員会の正・副委員長が、2月定例会での審査内容を報告しました。意見聴取会では、市民の方と議員がテーブルを囲み、「共生社会について(多様な生き方を認め合える社会について)」のご意見を伺いました。なお、意見聴取会でいただいたご意見は、**報告書**にまとめ、市長へ参考送付しました。(内容は市議会ホームページにも掲載しています)

参加者数は2日間で計36名でした。



写真は意見聴取会の様子
左：18日(土)鎌倉市役所
上：19日(日)大船学習センター

参加した方の感想

(アンケートから抜粋)

- ・これを機に共生社会に関してひとつでも行動を起こしてみる。
- ・楽しく、勉強になりました。有意義な会と思いました。
- ・開かれた議会活動として、素晴らしいものだったと思います。ただ、若い世代が参加するような仕組みがあるともっとよいと思いました。
- ・意見聴取会は、もう少し時間がほしいかった。
- ・皆様ひとつひとつ自分の意見をおっしゃっていて良かったです。

議長・副議長・監査委員、常任委員会等の委員が決まりました



西岡幸子
監査委員

久坂くにえ
議長

池田 実
副議長

6月5日の本会議において議長・副議長の選挙を行い、議長に**久坂くにえ議員**が、副議長に**池田実議員**が選出されました。議会選出の監査委員には、**西岡幸子議員**が選任されました。なお、常任委員会等の委員構成は、次の表のとおり決定しました。

※市議会ホームページに「議長・副議長」からのメッセージ動画があります。

議長・副議長が決まるまで

① 所信表明会の開催(5月24日)

議長・副議長を志す議員は、所信表明を行うことができるものとしており、5月24日に**所信表明会**を開催しました。

議長選挙に係る所信表明の申し出は**高橋浩司議員**と**久坂くにえ議員**(申し出順)から、副議長選挙に係る所信表明は**池田実議員**からあり、それぞれが所信表明を行いました。

② 議長・副議長選挙(6月5日)

本会議場にて議長・副議長選挙が行われ、議長選挙は**高橋浩司議員**が12票、**久坂くにえ議員**が12票であり、同数であったため地方自治法第118条(公職選挙法を準用する旨の規定)に基づき**くじ引き**が行われ、**久坂くにえ議員**が議長に当選しました。

副議長選挙は**池田実議員**が23票(無効票1票)を獲得し、副議長に当選しました。

※①、②ともに市議会ホームページで録画映像をご覧ください。

委員会	所管事項	各委員会の所属議員(◎委員長 ○副委員長)
総務常任委員会	市の総合計画・税金・消防・防災など	◎山田 直人 ○志田 一宏 久坂くにえ 高野 洋一 くりはらえりこ 保坂 令子
教育こどもみらい常任委員会	学校教育・子育て・文化財など	◎高橋 浩司 ○前川 綾子 安立 奈穂 竹田ゆかり 千 一 納所 輝次
観光厚生常任委員会	福祉・ごみ・観光・産業・市民活動など	◎日向 慎吾 ○伊藤 倫邦 西岡 幸子 河村 琢磨 長嶋 竜弘 和江
建設常任委員会	景観・開発・道路・河川・下水道など	◎森 功一 ○大石 和久 武野 裕子 中村聡一郎 池田 実 松中 健治
議会運営委員会	定例会の会期・議案審査の順番・本会議の進行の確認など	◎中村聡一郎 ○前川 綾子 河村 琢磨 高野 洋一 山田 直人 高橋 浩司 志田 一宏 西岡 幸子 保坂 令子 納所 輝次
議会広報委員会	議会だよりの編集・発行など	◎武野 裕子 ○納所 輝次 日向 慎吾 山田 直人 安立 奈穂 森 功一 中村聡一郎

一般質問

一般質問とは、市の事務や市が抱える課題等について市長などにたずねるもので、6月定例会では15名の議員が一般質問を行いました。
ここでは、議会広報委員会で事項別に整理した内容の一部を掲載しています。
一般質問の全文は、8月下旬作成予定の本会議録に掲載します。図書館や鎌倉市議会ホームページ内「会議録検索システム」でご覧ください。

高齢社会について

高齢社会への対応について
次の質問が行われました。

質問：本市の高齢化率は既に

30%を超えており、2025年の高齢者人口は75歳以上が65歳から74歳までに比べ倍になると予測されている。その状況に合わせた施策の見直しや展開を図ることが必要と考えるがいかがか。

健康福祉部長：医療や介護を必要とする方が増え、今のサービス提供体制では十分に対応できないということを確認している。この状況に対応するため、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、2025年までの早い時期に、医療、介護、予防、住まい、生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムを構築する必要があると認識している。
質問：在宅医療の推進は地域包括ケアシステム構築の要である。医師会との連携は進んでいるか。
同部長：平成30年1月から鎌倉市医師会に委託し、鎌倉市在宅医療・介護連携相談センターを設置し、医療・

も重要と考えるがいかがか。

同部長：これまでも認知症サポーター養成などの取り組みを進めてきており、認知症について知識や理解を持つ市民を増やし、安心して自分らしく暮らすことができる地域をつくることも共生社会に向けた取り組みの一つと考える。

質問：高齢者の外出支援策で社会福祉法人の送迎車を活用したモデル事業の詳細について聞きたい。

介護の連携推進に努めている。今後も連携を密に図っていききたい。
質問：鎌倉市には認知症の方はどれくらいいるのか。
同部長：厚生労働省は介護認定の調査項目である認知症高齢者の生活自立度の8段階のうち、軽い方から3番目にあたる2A以上の人を認知症と定義している。この定義により算出すると平成31年4月1日現在の介護保険認定者約1万5000人のうち、5500人となる。

質問：認知症予防施策の展開が求められるが、市の取り組みを確認したい。
同部長：自治・町内会等地域の団体での出前講座の中で、体を動かしながらしり取りや計算を行うコグニサイズなど脳の活性化を図る内容を取り入れ、知識の普及・啓発を図っている。認知症予防には食生活の改善等による生活習慣病予防や社会参加も有効なことから、フレイル（※）予防や集いの場への助成の取り組みを行っている。

質問：認知症の方々と共に共生社会を形作っていくこと

が。

市長：誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けることができるように共生社会の構築に向けて市がリーダーシップを取っていきたい。一方、平均寿命の延びとともに元気で若々しいシニア

が増えている。65歳以上は高齢者という概念を払拭し、元氣なシニア層の社会参加を促進することで、共に支えていくことが重要と考えている。超高齢社会を目前に控え、取り組みを一層加速、充実させていきたい。

SDGsの推進について

SDGs（持続可能な開発目標）（※）の推進について
次の質問が行われました。

質問：「かまくらプラごみゼロ宣言」が行われたが、プラスチックごみ削減に向けた具体的な取り組みを聞きたい。

環境部長：本庁舎などの自動販売機ではペットボトルの取り扱いをやめた。市民に対しては広報紙や「ごみ減量通信」のほか、自治・町内会などを通じて、プラスチックごみ削減のための啓発を行い、事業者へは個別訪問して販売工程等の使い捨て物品の削減について啓発している。各種イベントのプラスチックごみ対策としては、リユース食器の補助事業をさらに推進するとともに、海水浴場の海の家に対して、出店の説明会時に宣言の趣旨を説明し、協力を求めている。今後、店舗等へのポスター等の掲示を通して、事業者へ理解・協力を求めている。

質問：鎌倉花火大会でのプラスチックごみ対策はどうするのか。
同部長：昨年度まで実施していた、ごみ回収用のプラスチックごみ袋の配布をやめ、ごみの持ち帰りの呼び掛け

が。誰かが住み慣れた地域で安心して住み続けることができるように共生社会の構築に向けて市がリーダーシップを取っていきたい。一方、平均寿命の延びとともに元気で若々しいシニアが増えている。65歳以上は高齢者という概念を払拭し、元氣なシニア層の社会参加を促進することで、共に支えていくことが重要と考えている。超高齢社会を目前に控え、取り組みを一層加速、充実させていきたい。

が増えている。65歳以上は

高齢者という概念を払拭し、元氣なシニア層の社会参加を促進することで、共に支えていくことが重要と考えている。超高齢社会を目前に控え、取り組みを一層加速、充実させていきたい。

や臨時のごみステーションでの回収を徹底していく。
質問：容器包装プラスチックと製品プラスチックの回収後のリサイクルの状況について聞きたい。

同部長：容器包装プラスチックはパレットなどの製品やアンモニアなどの原料として資源化を図っている。製品プラスチックはプラントリヤざる等の製品への資源化と、サーマルリサイクルにより熱回収を図っている。

質問：教育現場ではSDGsをどう学んでいるのか。
教育部長：学校での取り組みの例として、小坂小学校では、フードロス00（ゼロゼロ）応援隊として食品ロス削減の啓発に取り組んでおり、それを学級通信で紹介したり、児童が新聞を作成するなどしたりしている。

質問：市のSDGs未来都市計画を児童・生徒が学ぶ機会はあるのか。
同部長：社会科の学習や総合的な学習の時間の中で、鎌倉市のごみの量やバリアフリーなどについての授業を行っている。引き続き、各教科の単元や項目をSDGsの17の目標のどこに関連しているのかを明示しながら学習活動を行うことで、

子どもたちが地域や社会で起こっている問題に関心をもち、身近な問題と捉え、自分たちに何ができるかを考え、解決していくことができるような教育を目指していく。

質問：市長は都市経営にSDGsの理念を取り入れると述べているが、具体的な進

め方聞きたい。
市長：これまで培ってきた市民力、地域力など鎌倉が誇る資源を総動員し、テクノロジーの活用など新たな技術や視点を行行政営に積極的に取り入れることで、鎌倉のまちに新たな価値を築き、次世代に引き継いでいきたい。

一般質問項目一覧

- ① 保坂 令子（神奈川ネット鎌倉）
 - 1 子育て支援について
 - 2 防災、特に津波避難対策について
 - 3 本庁舎整備について
 - 4 ごみ処理施策の方針転換について
- ② 日向 慎吾（鎌夢会）
 - 1 海岸と海中ごみについて
 - 2 運転免許証返納とサポートについて
 - 3 鎌倉市LINE公式アカウントの活用について
- ③ 長嶋 竜弘（無所属）
 - 1 鎌倉市政に異論反論オブジェクションVOL.7
 - 2 鎌倉市の問題課題を千田新副市長と共に考えるVOL.2～SDGsとは何？ 鎌倉市の確証パイアスとパラドックスを暴く～
- ④ 竹田 ゆかり（無所属）
 - 1 庁舎管理規則の問題性について
 - 2 平和推進事業について
 - 3 旧優生保護法下における被害者救済法施行にあたって
 - 4 「学校の働き方改革」の進捗状況について
 - 5 教育環境条件整備について
- ⑤ 松中 健治（無所属）
 - 1 ゴミ問題。
 - 2 防災問題。

- 3 村岡駅問題。
- 4 げけ地対策。
- 5 やぐら保存問題。
- ⑥ くりはら えりこ（無所属）
 - 1 特殊詐欺の被害についての対策
 - 2 学校におけるSDGs（持続可能な開発目標）教育について
 - 3 上下水道と河川・海の環境について（SDGs目標6・14）
 - 4 プラスチックゴミに関する諸問題について（SDGs目標12）
 - 5 北鎌倉駅周辺の道路に関する環境整備について
- ⑦ 前川 綾子（鎌倉みらい）
 - 1 地域包括ケアのまちづくりについて
- ⑧ 河村 琢磨（ヴィジョン）
 - 1 新時代の学びにおける鎌倉市の公教育について（国際バカロレアと情報教育）
 - 2 障害児・者のきょうだいが抱える諸問題とネウボラについて
 - 3 鎌倉市財政の将来予測について
- ⑨ 山田 直人（鎌倉みらい）
 - 1 （鎌倉版）コンパクトシティの形成について
 - 2 認知症施策における「共生」と「予防」について
- ⑩ 伊藤 倫邦（自民党鎌倉市議団）
 - 1 市道道路管理について
 - 2 通学路等危険ブロックについて
 - 3 公用車ドライブレコーダー設置の

- 普及率について
- 4 公用車走行時におけるヘッドライトの点灯、その後の実施について
- 5 防犯カメラ設置を行政が（固定式）行う事の考えについて
- 6 レスキューボード（海難事故救護）を導入した事について
- 7 仮称・道の駅整備構想について
- 8 坂の下漁港整備に向けたその後の進捗状況について
- ⑪ 志田 一宏（自民党鎌倉市議団）
 - 1 子供を守る環境について
- ⑫ 千 一（無所属）
 - 1 鎌倉市内の公衆トイレについて
 - 2 身体障がい者中心のグループホームについて
 - 3 鎌倉商工会議所のビルについて
 - 4 鎌倉市内のお店の段差について
 - 5 段葛の2段の段差について
- ⑬ 吉岡 和江（日本共産党）
 - 1 共生社会をめざしてー市民のくらしによりそってー
 - 2 湘南ヘルスイノベーションパークについて
- ⑭ 納所 輝次（公明党）
 - 1 鎌倉市におけるSDGsの推進について
- ⑮ 武野 裕子（日本共産党）
 - 1 「子ども・子育て支援法」と、行政・利用者・事業者への影響
 - 2 子ども会館を閉館することによる弊害

【用語の解説】

※フレイル

加齢に伴い、心身の活力（運動機能や認知機能等）が低下していく、健康な状態と介護を必要とする状態の中間的な段階をいう。

※SDGs（Sustainable Development Goals）

2015年に国連サミットで採択された、17のゴールと169のターゲットから成る持続可能な開発目標。「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、経済・社会・環境をめぐる広範な課題に統合的に取り組むとしている。

可決した意見書

6月定例会では、下記の意見書提出に係る議会議案を可決しました。なお、可決した意見書は、地方自治法第99条の規定に基づき、関係機関に送付しました。

幼児教育・保育の無償化制度に関する意見書

国は、本年10月から幼児教育・保育の無償化制度を開始するが、認可保育所、幼稚園、認定こども園及び認可外保育施設が無償化の対象となる一方で、国の認可基準を満たさない幼児教育施設等、いわゆる幼稚園類似施設は無償化の対象外となっている。

幼稚園類似施設では、子供一人一人に寄り添い、子供の個性を生かした教育が行われており、幼児教育において果たす役割は非常に大きい。幼児教育・保育の無償化について政府が掲げた、全ての子供に質の高い幼児教育を保障することを目指すという方針を鑑みると、これらの施設についても無償化の対象とすることが望ましく、また、これらの施設に子供を通わせる保護者にとっては、無償化が実現されないことに不公平感を抱かざるを得ない。

本市では、私立幼稚園等就園奨励費補助金において、幼稚園類似施設に通う園児の保護者に対しても、幼稚園に比べて補助額は少ないものの、市の財源で一部補助を行っており、本年10月の幼児教育・保育の無償化制度の開始後も引き続き補助を行うが、市の財源のみで幼稚園類似施設を対象に全額補助を行う、いわゆる無償化を実現するには財政上の困難を伴う。

よって、国におかれては、補助対象施設の見直し等を行い、国の認可基準を満たさない幼児教育施設等、いわゆる幼稚園類似施設を、幼児教育・保育の無償化の対象とするよう要望する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和元年(2019年)6月21日

鎌倉市議会

請願・陳情の議決結果

6月定例会では1件の請願、12件の陳情が提出された。そのうち、請願1件、陳情11件を各常任委員会に付託し審査を行いました。(陳情1件は取り下げ)

その結果、陳情4件を採択し、請願1件を不採択としたほか、陳情7件を継続審査としました。

結論が出た請願および陳情の要旨と結果は次のとおりです。

採択した陳情

◆岩瀬子ども会館存続と子供達の居場所確保についての陳情

◆岩瀬子ども会館の施設存続を求める陳情

陳情の要旨

2件の陳情とも、岩瀬子ども会館は地域の未就学児から

中学生までの子どもたちの大切な居場所であり、同会館が閉館すると未就学児の居場所がなくなってしまうことから、同会館の存続と子どもたちの居場所の確保を要望するものです。

委員会および本会議の結果

2件の陳情とも、委員会では総員、本会議では多数の賛成により採択しました。

◆深沢地域の新しいまちづくりの早期実施についての陳情

陳情の要旨

深沢地域の新しいまちづくりは、深沢地域の活性化だけでなく、市全体の持続的な発展や地域防災力の向上に大きく寄与する事業であることから、当初計画よりも大幅に遅延している当該まちづくり事業および関連する村岡新駅整備の早期実施に向け、一層の支援・協力を強く希望するも

のです。

委員会および本会議の結果

委員会、本会議ともに多数の賛成により採択しました。

◆「幼児教育・保育の無償化制度」に関し、国への意見書の提出についての陳情

陳情の要旨

本年10月から実施予定の幼児教育・保育の無償化制度に関して、幼稚園類似施設の園児も無償化の対象となるよう、国に対し意見書を提出するよう求めるものです。

委員会および本会議の結果

委員会では総員、本会議では多数の賛成により採択しました。

なお、本陳情に基づく意見書は左記「可決した意見書」のとおりです。

不採択とした請願

◆鎌倉駅東口駅前広場整備工事のレイアウト見直しを求める請願書

6月13日開催

審査した内容(議案1件、陳情1件、報告事項13件)

報告事項 エンディングプランサポート事業について

本事業は、1人暮らしで頼れる身寄りがおらず、本人死亡後の対応に困難を来すことが予測される鎌倉市に住所を有するおおむね65歳以上の方を対象として、終活課題を整理し、生前に解決のめどを立て、安心した生活を送ることができるように支援するものであるとのことです。

本人の終活課題としての延命治療に関する意思表示、葬儀、納骨、遺品整理等の事務について、まず、市が本人と共に整理します。その後、市から紹介された本事業に協力可能な事業者等と本人とが、生前に委任契約の締結を行います。委任契約締結後に、市は登録カードを作成し、そのカードを本人・市・事業者等の3者が保有することで、登録者本人が亡くなった際には、さまざまな対応ができるとのことです。対象となる高齢者は、頼れる身寄りがいない低所得者であり、情報が入りにくいと考えられることから、日頃から地域で高齢者の見守り活動等を行っている民生委員や地域包括支援センターと連携を図り、必要な方に情報が届くよう、ホームページや広報等でも周知した上で、令和元年(2019年)8月から事業開始ができるよう準備を進めていくとのことです。

委員会では、報告事項について了承されました。

6月17日、20日、21日開催

審査した内容(議案8件、報告事項8件)

議案第22号 令和元年度鎌倉市一般会計補正予算(第2号)

本補正予算(第2号)は、歳入、歳出ともに12億3718万5000円を増額するもので、補正後の一般会計予算の総額は626億5237万3000円になります。補正の主な内容は、(仮称)北鎌倉保育園整備に対する補助金(約2億6500万円)、低所得者および子育て世帯を対象とした「プレミアム付商品券」、鎌倉市民を対象とした「かまくらプレミアム商品券」の販売にかかる諸経費(約8億7000万円)、深沢地域整備事業を能動的に推進する立場で新たに雇用する参与に対し支払う報酬(120万円)、御成小学校旧講堂改修事業に係る工事及び工事監理等の経費(今年度から3年間の継続費として約4億4000万円を設定、そのうち地方債は約3億円を見込む)です。委員会では、質疑の後、一部委員から「国からの補助金なしに市が実施するかまくらプレミアム商品券事業について、全国的な取り組み状況について情報収集し、市が取り組む意義について説明責任を果たし、事業の効果を検証することを求める」、「深沢地域整備事業推進参与を雇用する意味や効果について市民へ明らかになるよう求め、また、その動向を注視していきたい」といった意見が出され、総員の賛成により可決されました。

観光厚生常任委員会

常任委員会

審査の一部を紹介します

総務常任委員会

建設常任委員会

教育こどもみらい常任委員会

6月14日開催

審査した内容(議案3件、請願・陳情7件、報告事項7件)

報告事項 旧村上邸の保存活用について

平成31年(2019年)4月26日に、プロポーザルで選定した保存活用事業主体である株式会社エンジョイワークスと、令和元年(2019年)5月1日から令和11年(2029年)3月31日まで、約10年間の定期建物賃貸借契約を締結し、企業を対象とした研修所や、市民の文化活動の場としての利用を開始したとのことです。

また、今後は、事業運営を適切に実施するために設立した、近隣住民、保存活用事業主体、市などで構成する保存活用協議会で、周辺住民等の理解を得ながら事業を進めていくとともに、この保存活用事業によって、建物や庭園を大切に保存することはもとより、地域のコミュニティの醸成にもつながることから、本市のSDGsの目標達成に向けた取り組みに寄与する施設として、保存活用事業主体と共に有効に活用していくとのことです。

委員会では、報告事項について了承されました。



旧村上邸の能舞台

6月12日、20日、21日開催

審査した内容(議案4件、陳情4件、報告事項12件)

陳情第2号 岩瀬子ども会館存続と子供達の居場所確保についての陳情

陳情第4号 岩瀬子ども会館の施設存続を求める陳情

二つの陳情はいずれも、閉館が予定されている岩瀬子ども会館は地域の子どもたちの大切な居場所であることから、同会館の存続と子どもたちの居場所の確保を市に要望するものです。

市の説明によると、同会館が所在する今泉小学校区においては、令和2年(2020年)4月から「放課後かまくらっ子いまいすみ」を開設することから、同年3月31日をもって同会館を閉館するとのことであり、閉館後の同会館の利活用については、売却・貸付等を含め、地域からの要望を考慮して検討していきたいとのことです。

委員会では、同会館が多世代交流や未就学児の居場所として長年にわたって果たしてきた役割は大きいという観点から、「今後は地域住民や利用者の意見を聴取した上で、利活用に当たっては民間活力を利用した施設利用の可能性も模索しながら検討していくべきである」との意見が出され、いずれの陳情も総員の賛成により採択されました。



岩瀬子ども会館

